

福岡県医師会 1944 号 (総)
平成 20 年 12 月 15 日



各医師会長 殿
各医師連盟執行委員 殿
各理事・監事・顧問・参与 殿

福岡県医師会
会長 横倉 義武
(公印省略)

麻生太郎総理大臣との面談について

寒冷の候 貴職ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃より医師会活動にご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

12 月 14 日朝 8 時過ぎより、日中韓首脳会議で帰福された麻生首相と松田専務を同道し面談いたしました。

まず、総理就任のお祝いと共に、先日来の医師及び医療制度についての発言の真意について尋ね、発言について強い抗議をお伝えいたしました。

医師の社会的常識云々の内容については、全国知事会の席であり、自治体立病院運営にあたる知事達に、「病院運営の要は医師確保であり、医師確保に知事が全力を尽くしてほしい事を力説するあまりの事であり、多くの医師はしっかりした方々であるが、中には違う人もいるのでその点に注意した事が、あの様な報道につながった」との説明がありました。(この状況については、全国知事会に出席されていた末吉興一内閣官房参与(前北九州市長)からも同様の説明が福岡県医師会再生ビジョン委員会で行われています。)発言については既に、日本医師会唐澤会長、竹嶋副会長に対し発言の撤回と謝罪が行われておりますが、この事を再確認いたしました。

国民皆保険制度については現在の制度の維持に努めると発言があり、地域医療が危機的状態に陥った最大の原因は、永年にわたる医療費抑制策によるものと認識されており、小泉政権から福田政権までの間に、既に 1 兆 2 千億以上の社会保障費が削減されているので、これ以上の削減はしない事を明言され、次年度予算においては社会保障費の伸びの 2 千 2 百億の削減は行わない旨を約束されました。

また、今後、医療政策については真摯に取り組み、財政偏重の国家の在り方を国民の生活重視に重点を置いた国家に変えたいとの考えであり、地域医療を守っていく姿勢を明確に示されました。

その上で、今後とも県医師会、県医師連盟に自由民主党への支援を強く要請され会談を終了いたしました。

以上、ご報告申し上げますとともに、今後ともご指導、ご尽力賜りますようお願い申し上げます。